

# けいざい+新話

## 反発なんの覚悟の变革

### お寺とビジネスⅡ

埼玉県熊谷市の見性院は400年以上の歴史がある曹洞宗のお寺だ。住職はいまの橋本英樹(50)で23代目。その橋本が運営を一変させた。

訪れた人はまず、参道入り口に掲げられた「心得十カ条」を目にする。質素儉約を旨とする▽原則、禁煙禁酒▽高級車に乗らないといった項目が並ぶ。  
お布施の「料金表」も掲げている。葬儀を担う導師がひとり戒名が「信士・信女」の場合で20万円。以前は50万円もらっていたの

## 料金表・送骨サービス



一目で分かる「お布施一覧」と、橋本住職。埼玉県熊谷市の見性院

を大幅に下げた。橋本が「変革」に踏み切ったのは4年前だ。檀家制度をやめて、寺と、檀家改

め「信徒」との関係を、互いに縛らないものにした。背景にあったのは檀家数の減少だ。明会計とサービス重視を掲げ、ネットを通じて新規開拓する方向へとかじをきった。

遺骨を郵送で受け付ける

「送骨サービス」を始め

た。敷地内に合祀し、永代供養する。料金は送料込みで3万円強。宗派や国籍は一切問わない。「お金がないと墓が建てられない」といった相談があり、受け入れられる自信があった。多

いとき、ひと月に全国から50人分の遺骨が届く。橋本は駒沢大大学院を修了後、曹洞宗の大本山永平

寺(福井県永平寺町)で3年間修行した。30歳で米国に渡り、スタンフォード大学の仏教学研究所に2年間籍を置いた。留学時代、日系寺院に泊まり込んで手伝いをしていた時期がある。

そこでは寺が茶道や華道、書道や太鼓といった日本文化を伝承する役目を担っていた。日系3世、4世を仏教につなぎとめるためでもあった。

檀家制度をやめても多くが会員として残り、信徒は増えた。昨年度の収入は前年度の1.5倍の約1億5千万円だったという。だが橋本に対する仏教界の反発は強い。曹洞宗の宗務庁は4月、送骨サービスについて「純粋なる信仰心と宗教行為に対する重大な冒瀆及び誤解の起点となる」と厳しく批判した。

見性院が属する曹洞宗埼玉第一宗務所の所長、安野正樹(建福寺住職)によると、「檀家の遺骨が勝手に郵送された」といった苦情が別の寺から寄せられているという。安野は言う。

「宗教者が遺骨の郵送を率先して奨励するのはいかがなものか。本当に困っている人を助けたいなら、自ら取りに行くべきだ」

こうした声を橋本は意に介さない。だが本来、ビジネスという「俗」から切り離された「聖性」にこそ宗教の本質があるのではないかと、疑問を橋本にぶつける。こう言った。

「これからは宗教とお金の関係をクリアにし、説得力を持って語れる寺だけが生き残れる。それが私の答えです」

敬称略

(佐藤秀男)

ご意見は、keizai@asahi.comまで。